

# オープン カレッジ

名古屋市立大学大学院  
経済学研究科講師



## 大神 正道氏

近年、リーマンショックや歴史的な円高、グローバル競争などを背景に、国内製造企業は生産拠点の海外移転を進めてきた。そこで本稿では、これまで

### 国内生産拠点の海外移転をどう考えるか

問題点について指摘したい。に見える。

経済発展プロセスについて、先進国から成熟化した製造機能を他国に移転し、その高付加価値製品が、実は重要な活動資源を新たなイノベーションの源泉である最先端の製品や製造プロセスに依存し、品開発活動に再配置すれば、経済成長が促され、生活水準

おがみ まさみち イノベーション・マネジメント。東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学・修士（経済学）。1980年生まれ。

## 「周辺知識」が衰退の恐れ

車用やハイブリッド・カー用の電池が、なぜアメリカ国内で生産されなくなったのかについて考えてみよう。数十年前に生まれた電池のイノベーションの大半は、より機能的で、より小型の家電製品へのニーズから生まれたと言われている。それから家電産業が成熟化すると、アメリカはその事業のほとんどを放棄した。結果、パソコンや携帯電話だけでなく、動力源となる電池においても研究開発と生産の中心地が東アジアへとシフトしたのである。

製造機能を完全に切り離さず、国内拠点が海外生産を支

援するマザー機能に特化したイノベーションに必要な周辺要素や知識を絶やしてしま

外に移ることで国内サプライヤーとの取引の多くがなくな

り、イノベーションに必要な一度失われてしまうと容易に

周辺の知識が衰退してしま

取り戻すことはできない。そ

う。具体的には、それまでは

量は前の設計図面の段階で、

現場の熟練労働者や金型メー

カーから作りやすく、不良品

セスが簡単に切り離せない場

合、あるいは製造プロセスが

いまだ発展途上で進化の可能

性がある場合、生産コストの

観点からだけで工場を海外に

移転するという意思決定は將

来に海外に移転することや、海

外的なイノベーションの芽を

摘んでしまうことになってし

まうのではないだろうか。

